

平成29年白老町議会産業厚生常任委員会協議会会議録

平成29年11月27日（水曜日）

開 会 午後2時00分

閉 会 午後2時24分

○会議に付した事件

1. アヨロ鼻灯台周辺の観光拠点としての活用について（経済振興課）
-

○出席議員（6名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	本間広朗君
委員	氏家裕治君	委員	森哲也君
委員	松田謙吾君	委員	山田和子君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

経済振興課長	森玉樹君
経済振興課主幹	貳又聖規君

○職務のため出席した事務局職員

主査	増田宏仁君
書記	葉廣照美君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより産業厚生常任委員会協議会を開会いたします。

（午後2時00分）

○委員長（広地紀彰君） 協議事項はアヨロ鼻灯台周辺の観光拠点としての活用についてということで、担当課より説明を求めます。

貳又主幹。

○経済振興課主幹（貳又聖規君） それではどうぞよそしく願ひいたします。私のほうから資料に基づきまして説明をいたしたいと思ひます。

アヨロ鼻灯台周辺の観光拠点としての活用についてでございます。目的でございます。本町の主要産業の一つである観光を取り巻く環境は、2020年の民族共生象徴空間の開設により大きく変貌することが想定され、特に今後増加する海外からの旅行者を獲得するためには、地域の持つ資源や魅力を最大限活かし、町内の回遊性を高めていくことが必要となっております。そのため、アヨロ鼻灯台を含む周辺を観光拠点として整備活用することによって、虎杖浜地域への回遊性を高め、集客力向上を図るものであります。

2番目です。灯台周辺の概要でございます。①文化財保護法により「カムイエカシチャシ」として埋蔵文化財包蔵地に登録されており、灯台建設に際して発掘調査が行われ、縄文期からアイヌ文化期にかけての遺物が採集されております。②周辺一帯も、対岸のカムイミントルチャシ、虎杖浜1遺跡など数多くあります。③町内唯一、太平洋に突き出た岬状大地であり、「白老アイヌ語マップ」のほうでも数多くのアイヌ語地名がある区域でございます。④アヨロ鼻灯台は昭和51年12月に設置されまして、平成28年10月26日に業務を終了いたしております。

3点目、活用方針でございます。アヨロ鼻灯台の取得についてでございます。海上保安庁では、平成26年3月に「沿岸灯台等の廃止計画」を策定し、道内の約350基ある灯台のうち「アヨロ鼻灯台」を廃止対象標識とし、平成28年10月26日に廃止いたしました。第1管区海上保安部から白老町に対し、灯台取得の有無について相談があり、灯台の存廃に係る関係者へのヒアリングを行った結果、観光事業者並びに地域住民代表からは、存続し観光資源としての活用を望む声が多く聞かれました。虎杖浜竹浦観光連合会では、8月24日、町に「アヨロ鼻灯台の観光資源としての活用にかかる要望書」が提出されたところでございます。それらを踏まえて、まちではアヨロ鼻灯台を、地元の意向を踏まえ、財務局より灯台（土地を含む）の有償譲渡を受けることとし、虎杖浜地域の観光資源としての活用を図る考えであります。取得費用につきましては数万円程度を見込んでございます。維持管理につきましては、虎杖浜竹浦観光連合会を中心に地域住民等で組織する「保存する会」を設立し管理するとともに、募金活動を行い、管理費用を積み立てる計画でございます。

続きまして裏面でございます。（2）活用の考え方につきましては、灯台をアヨロ地域のシンボリックな施設といたしまして、眺望の場や写真撮影スポットとしての活用が考えられるほか、アヨロ海岸や遺跡を結びつけ、歴史を巡るフットパスルートの整備を検討したいと考えております。また、夜の時間を利用したライトアップや漁火鑑賞の場としての活用を検討するというような形でありま

す。

(3) 整備費用等の考え方につきましては、概ね500万円から1,000万円を想定してございます。財源は国の交付金等の活用を検討してございます。内容は、階段・落下防止柵の設置、案内看板等の設置というような形で考えてございます。また、現在、日本遺産の認定申請ということで平成29年10月11日に西胆振の3市4町において西胆振日本遺産推進会議が設置され、胆振総合振興局が事務局となり、平成31年1月の申請に向けて準備を進めているところでございます。本町といたしましては、この認定の中では虎杖浜のアヨロ周辺地を対象としてございます。

最後に今後の流れでございます。平成30年度、虎杖浜竹浦観光連合等と整備活用計画の作成を考えてございます。北海道財務局とアヨロ鼻灯台に係る売買契約の締結を考えてございます。平成31年度、案内板や転落防止柵等の整備をいたしまして、利用開始を進めたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○委員長(広地紀彰君) それでは今の説明に関わって質疑のある方はどうぞ。

氏家裕治委員。

○委員(氏家裕治君) 6番、氏家です。質疑というよりも、私も縁ありましてホテルのほうに勤務している関係上、ちょうど4、5年前このアヨロ鼻というのでしょうか、この周辺に行きたいという方がいらっしやいまして、僕はその当時なぜあんなところと思ったのだけれども、たぶんそこにいろいろな縁のある人だったのでしょね、きっと。最初にきたときにはどう行ったらいいかということを知りたかったので、わからないで登別に泊まったのでしょね。それからたぶん周辺のホテルに泊まっているはずなのです、こちらからご案内して。本来、自分たちには関係はないのだけれど、昔の先祖だとかそういった方々のアヨロ周辺のそういった形でこられている方々がいるのではないのかなと思うのですよ。ですから、私もこういう話を聞くまではあまり大きな関心事ではなかったのですけれど、確かにそういった要望があるのであれば今後の2020年の象徴空間整備に向けて、やはり大きなお金をかけるのではなくて、ある一定の安全策とそういったところを周遊できるようなそういった施設は必要なものではないのかなと考えていました、こういった資料をもらいながら。皆さん、いろいろな意見があると思いますけれども、私はそういう考えで。

○委員長(広地紀彰君) 森経済振興課長。

○経済振興課長(森 玉樹君) 今、お話あったように整備としましては過度な整備は考えてございません。虎杖浜地域には宿泊施設と水産関係の小売店等数多くございますので、そちらに足を運んでいただく、さらにはホテルに泊まっていたお客様に少しでも満足いただけるような、まず回遊性を向上させて各お店の集客力向上につなげる方策としまして、やはりこの地域をうまくと言いますか、活用してそういった展開を図っていきたいというふうに考えています。

○委員長(広地紀彰君) 6番、氏家裕治委員。

○委員(氏家裕治君) 6番、氏家です。私もやっぱり虎杖浜地区の温泉街、あの辺をもう少しうまく活用した中で集客を考えるべきだなと思います。お客さんにしてみれば温泉に入ることが一つの目的ではなくて、たぶんそういったところの周遊だとか、それからそういったことが大きな目的としてこられているのですね。そして登別温泉に泊まるよりはこちらのほうが絶対に近いのだとか、そういった物事の考え方の中で周りの加工屋さんとか商店がある程、潤おうような形が取られ

ばそれに越したことはないわけです。ですから、そういった形の中で積極的に白老町をアピールしていく上でも、そういったところの本来埋もれている部分をもう少しクローズアップして集客につなげていただければなと私はそう考えています。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からは。

1番、山田和子委員。

○委員（山田和子君） 1番、山田です。とてもいいことだと思うので進めていただきたいのですが、維持管理に関して保存する会を設立して募金活動などで管理費用を積み立てる計画とありますけれども、まちとしては全く支援しない予定で、民間が自ら進んでこの維持管理をやっていく、団体の方がやっていくということになるのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 森経済振興課長。

○経済振興課長（森 玉樹君） まず基本的には今回の説明の中にもあったように、地域の方たちからも残して活用してほしい、あと虎杖浜竹浦観光連合会からも観光資源として活用するために残してほしいといった要望も受けております。その中で、町の役割としましては、灯台を取得するという部分とはじめの過度ではないですけれども利用するための整備といった部分は、当然町の関わりが必要だというふうに考えてお話ししている中で、維持管理の部分でイメージしているのは散策路についても笹を刈って、例えばチップを敷くですとか、そういった程度の散策路の整備等をこちらとしては考えておりますので、そういった笹刈りですとか、やはりそれなりの整備をすることによって人も入ってきますので、そういった地域の方自身も関わっていただきたいといったようなことを联合会さんのほうとはお話しして、ぜひそういうふうな仕組み、取り組みになるように進めていきたいというお話も受けておりますので、今考えている維持管理というのは当面はそういったような維持管理プラス利用、運営についても関わってほしいといったところで、大きな町から何かこういった支援が必要だとか、そういったことは今のところは話には出ていない状況です。

○委員長（広地紀彰君） 山田和子委員。

○委員（山田和子君） 公園の里親の制度のように例えば柵の防腐剤が剥げてきたとか、そういうときは材料だけは町がということも、そういうような支援というふうに捉えていいのかどうかと、ライトアップの維持管理って、結構かかるのではないかなと思うのですけれど、その辺りの構想がありましたらお聞かせください。

○委員長（広地紀彰君） 森経済振興課長。

○経済振興課長（森 玉樹君） 現在のところ、そこまでの詳細については正直詰め切れていないところではあります。ただ、募金活動を行ってという中で、実態としてどれくらいの金額が集まるかにもよって、その地域で負担していただける部分の棲み分けというのも考え方が変わってくるかなと思いますので、その辺りどういった整備をするか、どこの位置に例えば説明板をつけるだとか、転落防止柵の設置位置はどこからどこまでの範囲にするだとか、散策路をどういった形でつけることによって利用しやすいのかだとか、そういったことを来年度に地域の方たちと絵を描いていきたいというふうに思っていますので、その中で議論していきたいなというふうには考えております。

○委員長（広地紀彰君） 本間広朗副委員長。

○副委員長（本間広朗君） 本間です。何点かお聞きしたいと思います。アヨロ鼻灯台は遺跡なの
ですよ、アイヌ期の。遺跡の紹介をどういうふうにPRしていくのかというのと、ただ灯台を照
らして綺麗だねというのではなくて、そのやはり昔からの遺跡があるというところを紹介してい
かないと、やっぱりこれはまたまずいことに、エカシチャシという言い方がどうかというのも僕
の中にはあるのですが、もしかしたら祈りの場だったのか磐というかチャシだったのかわからな
いですが、何か本末転倒のような感じで、ただ綺麗でいいなど。

それと、あそこは階段がきついので階段の整備というのも必要なのかなと。夏冬ずっとオールシ
ーズンあそこに行くとなると、結構坂になっていて急なので、例えばそこで転んだりする方も出て
くると思いますので、その辺の具体的なところはなかなか出てこないと思いますけれど、その辺の
ところも留意してやらないと、柵のこともありますし、そういうこともやらないと、やはり安全に
あそこを登ったり降りたり、ただ遠くから見る分にはいいけれど、やはりその今ここにもあるよ
うに景観というか、太平洋を見渡せるよと、地球岬のような感じのように見えますので、そういう
景観を見るのにもとてもいいところだと思います。安全対策というの、これからのことなのでや
ってほしいというのがあります。まずその辺のところどうでしょうかね。その辺のところまで留意
してやっていけるかどうか。

○委員長（広地紀彰君） 森経済振興課長。

○経済振興課長（森 玉樹君） 階段の部分含めて安全対策のお話ですけれども、当然、人が入り
込んで利用していただくエリアにするということは転落防止柵なんかも含めて、そういった安全対
策というのが一番大事にはなってくると我々も考えております。ですから、そういった部分含めて、
来年度に協議しながら絵を描いていきたいなというふうには思っています。合わせて遺跡の紹介の
部分も、一番端的に考えられるのはその遺跡の発掘された場所を紹介する説明板といったものを
設置して、そこを散策路でいわゆるつないでというのが一般的な考え方かなと思いますけれども、
そういった部分の紹介も町としては、ここにも歴史を巡るフットパスルートというふうに書いてい
ますけれども、そういったような活用も考えられると思いますので、その辺も来年度検討の中で一
つ頭出しさせてほしいなと思います。

○委員長（広地紀彰君） 本間広朗副委員長。

○副委員長（本間広朗君） それから要望なのですけれども、いわゆるポンアヨロ川の河口、あそ
こもこれから灯台の取得に合わせて整備も必要だと思いますので、私からもぜひそれを早急に整備
していただけるような形でやっていただければと。

それと日本遺産の認定のことなのですが、まちも今ピリカノカで動いていると思いますので、
いわゆる今さっき言った1遺跡から9遺跡のところなのですが、今ソーラーも建っていますよね。
ピリカノカの景観という観点から。ソーラーも建っているし、灯台も建っているし、太平洋沿岸、
東から西胆振の沿岸でこれから認定に向けて申請していくと思いますけれど、灯台というのは障害
にならないのかどうか、日本遺産の認定に。そこだけ聞きたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 森経済振興課長。

○経済振興課長（森 玉樹君） 資料の2のほうに白老町のピリカノカの素材という部分でご紹介
させていただいておりますけれども、その中には灯台という施設は入っておりませんし、それ自体

が認定申請に向けての支障となるというお話は聞いておりません。ポンアヨロ川の河口の部分は、毎年北海道のほうには、今被災を受けたそのままの状態になっておりますので、復旧の要望は企画課のほうから北海道に対して毎年しているというふうには聞いております。ただ、やはり、これから人が入り込んでもらうようなエリアにしようというふうには今考えていますので、そこは今までよりもさらに強く復旧についての要望を上げていく必要があると思っておりますので、そちらの部分については企画課をとおして北海道のほうには要望していきたいなというふうには思います。

○委員長（広地紀彰君） 本間広朗副委員長。

○副委員長（本間広朗君） やはり、これからアヨロ鼻灯台を紹介していくので、ポンアヨロ河口とのセットで、同時進行で、協議会だからあまり意見言ってもあれかもしれないけれど、やはりセットで整備していくような形でまちは動いてほしいと思うのです。灯台に来たはいいけど、何だこの河口はということになって、がっかりするとか、ずっと海岸を散策する方もいますので、そういうところでイメージダウンにならないような整備の仕方とか、アヨロ鼻灯台を含めてやっていければと思います。そういう形でぜひお願いします。

○委員長（広地紀彰君） ほか。

松田委員。

○委員（松田謙吾君） もともとあそこは屋根のない博物館構想の中の一環に入っていたわけだよ、おそらく。アヨロ川の出口、あそこだって白老ではあれほど立派な景観ないよな。しかもあそこでキャンプもし、トイレもあったのだけど、25年に行政改革であそこのトイレを外してしまったのだよね。本当はトイレあるべきだったのです。今になったらやっぱり、氏家委員も先ほど言ったけれど、登別に100万人くる観光客があそこに足を運ぶような、私は多少金をかけてもいいと思うな。それぐらいの価値のあるアイヌのいろいろなものも残っている。私は大いに賛成だし、もう少しきちっと整備したら、もっともっと町民の憩いの場に、子供の学習の場に私はなると思いますよ。ですから私は本当に少しお金をかけて整備してほしいなと思うな。白老の宝ですよ、あれね。

○委員長（広地紀彰君） 貳又主幹。

○経済振興課主幹（貳又聖規君） 松田議員おっしゃるように大変素晴らしい宝だと我々も考えております。野口屋又蔵さんの石碑ですとか、そういったものが屋根のない博物館等にも入っておりますので、やはり先人や偉人に感謝の意を込めて、教育等も連携しながら取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

○委員長（広地紀彰君） よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それではご意見なしと認めます。

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、これをもちまして産業厚生常任委員会協議会を終了いたします。

（午後2時24分）